学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	塩原　隆彦（実務経験あり）		
科目名	人間の尊厳と自立Ⅰ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護実践で関わる人に対する尊厳の保持や、権利擁護の視点及び専門職としての倫理観を養う。
◆概要	・福祉の理念を理解する。 ・社会保障制度についての基礎的理解。 ・介護実践の際の総合的判断力や介護福祉士としての倫理観を学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	人間の尊厳と人権・福祉理念（人間の多面的理解）	人間の尊厳と人権・福祉理念
2	人間の尊厳と人権・福祉理念（人間の多面的理解）	
3	人間の尊厳とは事例を使い考える	
4	人間の尊厳とは事例を使い考える	
5	人間の尊厳とは事例を使い考える	
6	人間の尊厳とはグループワークの発表	
7	ノーマライゼーションとは	
8	ノーマライゼーションの実現について	
9	ノーマライゼーションの実現について	
10	QOLの考え方	
11	生命倫理、死生観について	
12	生命倫理、死生観について	
13	事例を使い生命倫理について考える	
14	事例を使い生命倫理について考える	
15	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・人間の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%　・授業態度25%　・試験60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

福祉現場での実務経験をもとに事例等を使い、人間の尊厳と自立について考えを深める授業である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	塩原　隆彦（実務経験あり）		
科目名	人間の尊厳と自立Ⅱ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護実践で関わる人に対する尊厳の保持や、権利擁護の視点及び専門職としての倫理観を養う。
◆概要	・福祉の理念を理解する。 ・社会保障制度についての基礎的理解。 ・介護実践の際の総合的判断力や介護福祉士としての倫理観を学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	自立の概念	自立の概念
2	自立の考え方	
3	事例を使い自立とは何か考える	
4	事例を使い自立とは何か考える（グループワーク）	
5	事例を使い自立とは何か考える（グループワーク）	
6	自立とは何かグループワークのまとめを発表する	
7	自立とは何かグループワークのまとめを発表する	
8	尊厳の保持と自立のありかた（自己決定・自己選択・意思決定）	
9	尊厳の保持と自立のありかた（自己決定・自己選択・意思決定）	
10	リビングウィルと権利擁護	人間の尊厳と人権・福祉理念
11	リビングウィルとアドボカシー	
12	尊厳の保持と終末期ケアを事例を使い考える	
13	尊厳の保持と終末期ケアを事例を使い考える	
14	介護福祉士として尊厳と自立にどのように関わっていくのか	
15	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・人間の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%　・授業態度25%　・試験60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

福祉現場での実務経験をもとに事例等を使い、人間の尊厳と自立について考えを深める授業である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	人間とは何か、人間関係とはいかにして築かれていくのかを考えることで、コミュニケーションの理解につなげることができる。また、対人関係におけるコミュニケーションの基本を学ぶことができる。
◆概要	人間とは何か、人間関係とはどのように築かれるのか、グループワークを頻繁に行い、自分の考えを明らかにしていく。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	人間関係の形成（人間らしさのはじまり）	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
2～3	人間関係の形成（自分と他者の理解）	
4～5	人間関係の形成（発達心理学からみた人間関係）	
6～7	人間関係の形成（社会心理学からみた人間関係）	
8～9	人間関係の形成（人間関係とストレス）	
10	コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの概念）	
11～12	コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの基本構造）	
13～14	コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの手段）	
15	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

人間の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての実務経験を活かし、介護現場における人間関係とコミュニケーションの重要性を理解できるよう指導する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	バイステックの7つの原則について理解し活用することができる。また、傾聴について実践を通してその重要性と難しさを学ぶことができる。
◆概要	バイステックの7つの原則、傾聴といった、対人援助のためのコミュニケーションの基本について触れていく。また、組織の一員として働くという意識を高めていくため、事例も交え講義していく。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～2	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
3～4	対人援助における基本的態度	
5～6	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則	
7～8	傾聴について考える	
9～10	組織の条件とコミュニケーションの特徴	チームマネジメント
11～12	組織における情報の流れ	
13～14	組織において求められるコミュニケーション	
15	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

人間の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての実務経験を活かし、介護現場における人間関係とコミュニケーションの重要性を理解できるよう指導する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	人間関係とコミュニケーションⅢ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護をチームで行うことの重要性が理解できるとともに、チームをマネジメントするためには何が大切であるかを学び取ることができる。
◆概要	介護現場におけるチームケアについて、多職種の連携や、介護福祉職間の連携の事例をもとに理解を深めていく。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～2	ヒューマンサービスとしての介護サービス	
3～4	介護現場で求められるチームマネジメント	チームマネジメント
5～6	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	
7～8	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	
9～10	チームでケアを展開するためのマネジメント	
11～12	チームの力を最大化するためのマネジメント	
13	情報共有の場について考える	
14	試験	
15	振り返り	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

人間の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての実務経験を活かし、介護現場における人間関係とコミュニケーションの重要性を理解できるよう指導する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	人間関係とコミュニケーションⅣ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	キャリア、自己研鑽について理解するとともに、自身はどのようになっていきたいのか、現時点でのキャリアデザインを描くことができる。介護サービスを支える組織について理解できる。
◆概要	介護現場におけるキャリアパスについて触れる。自己研鑽をする意味やその必要性について、先輩方の事例を活用し理解を深めていく。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～2	介護福祉士のキャリアと求められる実践力	
3～4	介護福祉士としてのキャリアデザイン	
5～6	介護福祉士のキャリア支援・開発	
7～8	自己研鑽に必要な姿勢	
9～10	介護サービスを支える組織の構造	チームマネジメント
11～12	介護サービスを支える組織の機能と役割	
13～14	介護サービスを支える組織の管理	
15	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

人間の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての実務経験を活かし、介護現場における人間関係とコミュニケーションの重要性を理解できるよう指導する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	渡邊　庸介（実務経験あり）		
科目名	社会の理解Ⅰ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	前期学習では高齢者を取り巻く各種保健福祉・介護保険制度、などを学び制度と高齢者との繋がりを理解する。
◆概要	高齢者保健福祉と介護保険制度 地域共生社会の実現に向けた制度や施策

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	高齢者保健福祉と介護保険制度　高齢者保健福祉の動向	高齢者福祉と介護保険制度
2	人口の高齢化と高齢者保健福祉	
3	高齢者保健福祉に関連する法体系　高齢社会対策基本法	
4	老人福祉法	
5	高齢者の医療の確保に関する法律	
6	ライフスタイルの変化	
7	介護保険制度　介護保険制度の背景と目的	
8	介護保険制度のしくみの基本的理解	
9	地域共生社会の実現に向けた制度や施策　地域福祉の理念	地域共生社会の実現に向けた制度や施策
10	地域福祉の歴史的展開	
11	災害と地域社会	
12	地域共生社会をめざす社会的背景	
13	地域包括ケアの理念	
14	地域包括ケアシステム	
15	前期テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

社会の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

授業態度30%　提出物10%　テスト35%　出席率25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.　その他

社会福祉士の実務経験を活かし、介護福祉の諸制度について理解を深める授業である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	渡邊　庸介（実務経験あり）		
科目名	社会の理解Ⅱ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要	
◆到達目標	後期学習では、社会保障制度や社会と生活について幅広くとらえることが出来る。
◆概要	社会保障制度（社会保障の基本的な考え方・日本の社会保障制度の発達・日本の社会制度のしくみ）を学習する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	社会保障のイメージをつかむ	社会保障制度
2	社会保障の意義と役割	
3	ライフサイクルからみた社会保障	
4	社会保障制度の歴史を学ぶ意義	
5	日本国憲法と社会保障	
6	国民皆保険・皆年金の確立	
7	社会保障の拡充（福祉六法の時代）	
8	介護保険と福祉の考え方の変化	
9	日本の社会保障制度のしくみ　（年金保険・医療保険・介護保険・雇用保険と労働者災害補償保険）	
10	日本の社会保障制度のしくみ　（年金保険・医療保険・介護保険・雇用保険と労働者災害補償保険）	
11	生活を多様性にとらえる視点　「家族」と「家庭」の違い	社会と生活のしくみ
12	家族の機能と役割　家族の概念とその変容	
13	社会と生活のしくみ　社会・組織の機能と役割	
14	地域と地域社会　地域社会における生活支援	
15	後期テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

社会の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

授業態度30%　提出物10%　テスト35%　出席率25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7．その他

社会福祉士の実務経験を活かし、介護福祉の諸制度について理解を深める授業である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	渡邊　庸介（実務経験あり）		
科目名	社会の理解Ⅲ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	障害者保健福祉と障害者総合支援制度について理解することが出来る。
◆概要	障害者保健福祉の動向・障害者保健福祉に関連する法体系・障害者総合支援制度について学習する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	障害者保健福祉の動向　障害者福祉の現状	障害者福祉と障害者保健福祉制度
2	障害者福祉の歴史	
3	障害者福祉の動向	
4	障害者福祉に関連する法体系　障害者保健福祉の法律	
5	障害者の法的定義　障害児に対する支援制度	
6	障害者総合支援制度の創設の背景および目的	
7	市町村・都道府県・国の役割	
8	自立支援給付と地域生活支援事業	
9	障害者支援区分の認定	
10	財源と利用者負担	
11	障害福祉サービスの種類と内容、利用手続き	
12	協議会と基幹相談支援センター	
13	障害者総合支援制度における相談支援事業と相談支援専門員	
14	障害児を支える障害者総合支援制度	
15	前期テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

社会の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

授業態度30%　提出物10%　テスト35%　出席率25%

6.成績評価の基準

５．による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7．その他

社会福祉士の実務経験を活かし、障害者福祉の諸制度について理解を深める授業である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	渡邊　庸介（実務経験あり）		
科目名	社会の理解Ⅳ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	個人の権利を守る制度をはじめとする介護実践に関連する諸制度について理解することができる。
◆概要	個人の権利を守る制度・施策、保険医療に関する制度・施策、貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策、地域生活を支援する制度について学習する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	介護実践に関する諸制度や個人の権利を守る制度・施策 虐待防止に関する制度・施策	介護実践に関連する諸制度
2	サービス利用に関する制度・施策	
3	消費者保護に関する制度・施策	
4	その他個人の権利を守る制度・施策	
5	保健医療に関する制度・施策	
6	生活習慣病の予防・対策に関する制度施策	
7	結核・感染症の予防・対策に関する制度・施策	
8	HIV/エイズの予防・対策に関する制度・施策	
9	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策	
10	生活保護法	
11	生活困窮者自立支援法	
12	就労支援・雇用促進に関する制度・施策	
13	住生活を支援する制度・施策	
14	自殺を予防する制度・施策	
15	後期テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

社会の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

授業態度30%　提出物10%　テスト35%　出席率25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

社会福祉士の知識と実務経験を活かし、介護実践に関連する諸制度について理解を深める授業である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	百瀬　由久		
科目名	情報科学Ⅰ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	30時間	授業場所	校内・パソコン教室	前・後期	前期・後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	・パソコンを仕事でのツールとして使用することができる
◆概要	・パソコンの基本的操作を身につける ・エクセル、ワード、インターネットなどのアプリケーションソフトを使ってみる

2授業内容			教育に含むべき事項
1～5	パソコンの基本操作	電源のオンオフ、キーボード操作、マウス操作	
		ローマ字かな入力、文字入力、フォルダ操作、データコピー	
		アプリケーションソフトの利用、基本操作のまとめ	
6	エクセルを使ってみる		
7～12	色々調べて資料にまとめる	施設情報、医学情報、時代背景情報、などを調べる	
13～18	ワードの基本操作	ビジネス文書作成、歌集作成、掲示物作成	
19～24	エクセルの基本操作	色々な表作成、カレンダー作成、スケジュール表作成	
25～29	実習先について調べる	エクセル、ワードなどで資料を作る	
30	小テスト		

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

プリント教材

5.単位認定評価方法

小テスト50%　出席状況30%　授業態度などによる総合評価20%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	百瀬　由久		
科目名	情報科学Ⅱ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	35時間	授業場所	校内・パソコン教室	前・後期	前期・後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	・パソコンを仕事でのツールとして使用することができる
◆概要	・エクセル、ワード、パワーポイント、インターネットなどのアプリケーションソフトが使用できる

2授業内容			教育に含むべき事項
1～3	１年次の復習		
4～10	エクセルによる計算	四則計算、関数、など	
11～15	エクセルとワードの併用	差込印刷機能	
16～20	インターネット上の情報利用	エクセルのテンプレート利用、フェイスシート、アセスメントシート	
		エクセルテンプレートの編集	
		エクセルテンプレートを見本に自作する	
21～25	パワーポイント	パワーポイントによる発表技術	
26～30	インターネット情報の利用	国家試験問題について調べる	
31～35	小テスト		

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

プリント教材

5.単位認定評価方法

小テスト50%　出席状況30%　授業態度などによる総合評価20%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	百瀬　由久		
科目名	表現技法	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・パソコン教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	・特に文書表現の際に、分かりやすく、誤解の生まれない表現をすることができる
◆概要	・色々な表現技法を理解する ・どのような表現が分かりづらいかを情報の受け手の立場で理解する

2授業内容		教育に含むべき事項
1	色々な表現技法	
2	情報とは	
3	口語と文語	
4	文体と文末	
5	５Ｗ３Ｈ	
6	報連相	
7	閉じた質問、開いた質問	
8	メモなど	
9	専門用語と一般用語	
10	図による表現	
11	メモ、申し送り、根回し	
12	分かりやすい表現と分かりづらい表現、一文一義	
13	表現技法と介護記録	
14	表現技法と介護記録	
15	終了テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

補助プリント教材

5.単位認定評価方法

終了テスト50%　出席状況30%　授業態度などによる総合評価20%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	松田　幸子　　仁科　裕子　　堀内　泉 （実務経験あり）		
科目名	家政学	授業形態	演習	学年	2
総授業数	40時間	授業場所	校内・普通教室　他	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	暮らし（食生活・衣生活・住居）の基礎的な知識を習得する
◆概要	・身近な食品を使い、おいしく簡単な調理方法を学ぶ ・裁縫の基礎的知識と技術を学ぶ ・安全で快適な住環境について学ぶ

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	本日の食材に合わせた調理をする際の基礎知識と留意点・清潔な調理環境	
2～4	サバの味噌煮（魚のおろし方）	
5	本日の食材に合わせた調理をする際の基礎知識と留意点・清潔な調理環境	
6～8	鶏肉を使った料理（照り焼き）	
9	本日の食材に合わせた調理をする際の基礎知識と留意点・清潔な調理環境	
10～12	鍋で粥食を作る（豆腐ハンバーグ）	
13	本日の食材に合わせた調理をする際の基礎知識と留意点・清潔な調理環境	
14～16	アジの香味あげ	
17～21	裁縫の基礎知識（並み縫い・ボタン付け他）	
22～27	作品を作る（食事用エプロン）型紙から布を切る　ミシンの使い方	
28	住環境と住まいの役割	
29～30	安全な住まいと住宅施策	
31～36	高齢者に配慮した住宅各所の空間構成	
37～39	集団生活の場における工夫と留意点	
40	住環境のまとめ	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・生活支援技術Ⅰ（中央法規）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%・授業態度25%・作品の評価60%

6.成績評価の基準

５．による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
出席状況、授業態度、作品の評価のいずれかが不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

各分野の専門家の知識と技術を活かし、衣・食・住の基本的知識と技術を学ぶ授業である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪　広美　　（実務経験あり）		
科目名	介護の基本Ⅰ－1	授業形態	講義	学年	1
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護福祉士が対象とする高齢者の生活について学び、個々の考え方や価値観を理解していくことを目指す。また、ＩＣＦの個人因子、環境因子に結び付け情報収集やアセスメントの力を養う。
◆概要	・家族のライフヒストリーの作成を通じて身近な人の生き方を学ぶ。 ・各時代に生まれた人の多様な暮らしやその考えを学ぶ。 ・地域や施設で暮らす高齢者との関わりを通じて生活の多様性や社会との関わりを理解する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	福祉とは何か	
2	介護とは何か『ケアの原形論』より	
3	介護とは何か	
4	ライフヒストリーとは何か（家族のライフヒストリー作成目的に）	介護を必要とする人の理解
5	ライフヒストリーの聞き取りの方法と心構え	
6	家族のライフヒストリーから学んだこと	
7～8	生きてきた時代背景と人々の暮らし	
9～10	歴史から高齢者の生活を学ぶ（大正時代の生活）	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ
11～13	歴史から高齢者の生活を学ぶ（昭和時代の生活）	
14～15	歴史から高齢者の生活を学ぶ（平成時代の生活）	
16～17	地域の高齢者の暮らしを学ぶ（田川地区本郷町会の草刈り活動から）	
18～23	施設で暮らす高齢者の生活を理解する（1日体験）	
24	施設で暮らす高齢者の生活を理解する	
25～29	高齢者施設で暮らす高齢者の生活を理解する	
30	高齢者の理想的な暮らしとは何かを考える	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・介護の基本Ⅱ（中央法規）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%・授業態度25%・レポート提出60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

医療・福祉の現場に勤務し培った能力・技術を生かし介護福祉士の機能や役割について理解できるよう講義し理解する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪　広美　　（実務経験あり）		
科目名	介護の基本Ⅰ－2	授業形態	講義	学年	1
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護福祉士が対象とする高齢者や障害者の生活について学び、個々の考え方や価値観を理解していくことを目指す。また、ＩＣＦの個人因子、環境因子に結び付け情報収集やアセスメントの力を養う。
◆概要	・日本の各地域における行事や文化を通じて、行事や文化から見えてくる暮らしに対する思いに触れる。 ・事例を通じて、障害がある人の暮らしや多様な考えを学ぶ。 ・介護福祉士が対象とする人の、多様な暮らしや考えを活かした支援の必要性を学ぶ。 ・在宅で生活する高齢者の様々な暮らしを、在宅援助の実際から学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	年中行事とその意味（端午の節句の過ごし方とその意味）	
2	年中行事とその意味（お盆の過ごし方とその意味）	
3	年中行事とその意味（どんど焼きの過ごし方とその意味）	
4	行事から人々の暮らしや暮らしに対する考え方を考える	
5～6	障害者の事例から介護を必要とする障害者を理解する	
7	日本における様々な行事の背景や意味を学ぶ	
8	障害者の暮らしや考えを理解する（事例の読み合わせと事例の理解）	
9～10	障害者の暮らしや考えを理解する（暮らしにおける不自由を考える）	
11～12	障害者の暮らしや考えを理解し支援のあり方を考える（グループワーク）	
13～14	障害者の暮らしや考えを理解し支援のあり方を考える（発表～まとめ）	
15～17	その人らしさを尊重したケアとは（ICFの個人因子・環境因子との関係）	
18～19	ライフヒストリーから学ぶ利用者の個人因子・環境因子（実習Ⅰ－2）	
20～22	在宅で生活する高齢者の生活と介護の現状（社会福祉協議会の活動から）	
23～28	在宅で生活する高齢者の生活を理解する	
29	ライフヒストリーから見えてくる利用者の姿（実習Ⅰ－2の事例から）	
30	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

介護の基本Ⅱ（中央法規）

5.単位認定評価方法

・出席状況15％・授業態度25％・レポート提出30％・期末試験30％

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

医療・福祉の現場に勤務し培った能力・技術を生かし介護福祉士の機能や役割について理解できるよう講義し理解する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	深澤　栄美子　　（実務経験あり）		
科目名	介護の基本Ⅱ－1	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	前期学習では「社会福祉士法及び介護福祉士法」「求められる介護福祉士像」「卒業時到達目標」を理解でき介護福祉士に必要な役割や機能について理解する。
◆概要	介護福祉士になるための基本的な考え方を獲得するために、目指す指標となる各指針を基に学習する。指針を覚えることや内容についての理解を深め、どのような介護福祉士になるのかという介護観の形成に役立てる。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	「介護」とは何かを考える	
2	「介護」とは何かを考える　介護福祉を構築する意義について	
3	介護福祉士を取り巻く状況（介護問題と介護福祉士制度制定の経緯）	
4～5	介護福祉の基本となる理念	介護福祉の基本となる理念
6～7	求められる介護福祉士像	
8～10	高齢者の尊厳や自立支援を支えるケア	自立に向けた介護
11～14	介護福祉士の定義　社会福祉士法及び介護福祉士法（定義・義務・名称独占・登録のしくみ）	
15	「介護福祉士及び介護福祉士法」振り返りテスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

介護の基本Ⅰ（中央法規）　介護の基本Ⅱ（中央法規）福祉小六法2021（中央法規）　介護福祉の「専門性」を問い直す（中央法規）

5.単位認定評価方法

・出席状況15％・授業態度25％・レポート提出30％・筆記試験30％

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士、介護支援専門員として勤務して培った能力・技術を生かし介護福祉士の機能や役割について理解できるよう講義し理解する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	深澤　栄美子　　（実務経験あり）		
科目名	介護の基本Ⅱ－2	授業形態	講義	学年	1
総授業数	105時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	「日本介護福祉士会倫理綱領」「契約と利用者保護」「障害者総合支援法」「地域連携」等の概要を理解することで介護福祉士に求められる機能や役割について理解することができる。また、地域で暮らす聴覚障がい者との交流により地域で暮らすための制度や介護福祉士の役割について理解する。
◆概要	介護福祉士を取り巻く様々な仕組みや制度から基本的態度の形成を図る。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	介護の機能と役割　介護人材のキャリアパス（厚生労働省資料より）	介護福祉士の役割と機能
2・3	介護職の中で中核的な役割を担う介護福祉士とは	
4	介護福祉士を支える団体について　職能団体の意義	
5・6	介護福祉士会　介護福祉士養成施設協会　介護福祉学会　介護福祉教育学会	
7	生涯研修体系の必要性	
8	日本介護福祉士会生涯研修体系について　教育研修体制について	
9	介護福祉士の活動の場と役割について	
10・11	医療関係職種等の他職種の職能団体の歴史と活動	
12	介護福祉の倫理　職業倫理とは	介護福祉士の倫理
13	「介護福祉の倫理」の実践と尊厳ある介護実践について	
14～16	「介護福祉の倫理」の実践と尊厳ある介護実践について　普遍的倫理判断の4つのポイントとは	
17・18	日本介護福祉士会倫理綱領とは	
19・20	身体拘束の禁止　虐待防止　身体拘束の手引きから考える	
21・22	契約と利用者保護について	
23～25	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ　フォーマルサービス　インフォーマルサービスを事例を通して考える	
26・27	介護サービスに求められること	
28	外国のケアマネジメントについて	
29	日本のケアマネジメント	
30～32	介護保険制度におけるサービス等の種類	
33	障害者のケアマネジメントとは	
34	支給決定プロセスとは	
35～37	障害者のケアマネジメント（事例を使って制度・暮らしを理解する）	
38	ケア計画作成過程の構造	
39	障害者総合支援法におけるサービス等の種類	
40～53	「聴覚障がい者と学ぶ成人学校」 松本市在住の聴覚障がい者へ向けた「介護」についての講座の企画と実施	
54	障害者のケアマネジメント	
55	ケア計画作成過程の構造	
56～60	障害者総合支援法におけるサービス等の種類	
61・62	介護実践における連携　他職種連携	
63～65	協働する多職種の役割と機能	協働する多職種の役割と機能
66・67	利用者を取り巻く他職種連携の実際	
68～70	地域連携　地域連携の意義と目的	
71・72	地域連携のかかわる機関の理解	
73	介護における安全確保とリスクマネジメント	介護における安全の確保とリスクマネジメント
74	介護従事者の事故防止　安全対策	介護従事者の安全
75	行政機関に対する事故報告書の例	
76	感染管理のための方策　生活の場での感染対策	
77	在宅と集団生活における感染対策の違い	
78	介護者の健康管理の意義と目的	
79	安心して働ける環境づくり	
80～83	災害時の支援のあり方について考える（災害ビンゴ・地域の取り組みとその	
84・85	健康に生活するための感染症対策（感染症とはなにか）	
86～88	日本における感染症対策（予防接種）	
89～91	生活の場で問題となる感染症	
92・93	感染症対策のための介護福祉士の役割と多職種連携	
94・95	感染症と環境整備	
96～99	感染症罹患者への対応（嘔吐物の片づけ）	
100	地域で生活する認知症高齢者の理解（地域住民や家族の現状から）	
101～104	認知症と行政の取り組みを学ぶ（認知症サポーター講座を受講）	
105	後期期末テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

介護の基本Ⅰ（中央法規）　福祉小六法2021（中央法規）

5.単位認定評価方法
授業態度30%　提出物20%　テスト25%　出席率25%
6.成績評価の基準
5．による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。 追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。
7．その他
介護福祉士、介護支援専門員として勤務して培った能力・技術を生かし介護福祉士の機能や役割について理解できるよう講義し理解する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	コミュニケーション技術Ⅰ－1	授業形態	演習	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	コミュニケーションの基本を学ぶ。特に、言語、非言語、準言語の理解を中心に、体験を通してその大切さや難しさを体得できる。
◆概要	介護現場におけるコミュニケーションの基本を学ぶ。ロールプレイを中心に、体験を通して学びを深めていく。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	介護におけるコミュニケーションとは	介護を必要とする人とのコミュニケーション
2	介護におけるコミュニケーションの対象	
3	援助関係とコミュニケーション	
4	介護を必要とする人とのコミュニケーション①	
5	介護を必要とする人とのコミュニケーション②	
6	介護を必要とする人とのコミュニケーション③	
7	コミュニケーション態度に関する基本技術①	
8	コミュニケーション態度に関する基本技術②	
9	コミュニケーション態度に関する基本技術③	
10	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本①	
11	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本②	
12	目的別のコミュニケーション技術①	
13	目的別のコミュニケーション技術②	
14	集団におけるコミュニケーション技術①	
15	集団におけるコミュニケーション技術②	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

コミュニケーション技術（中央法規）

5.単位認定評価方法

実技50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士の実務経験を活かし、コミュニケーションについて考えを深め、実践から学べるよう指導する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	コミュニケーション技術Ⅰ－2	授業形態	演習	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援を理解できる。実習Ⅰ－2に向け、レクリエーションの基本的な方法が理解できる。また、実際に計画をし実践することで、自分の得意な部分や苦手な部分を発見する。
◆概要	コミュニケーションに障害のある人がどのような支援を必要とするのか学ぶ。レクリエーションについては実際に介護現場で実践をする。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	コミュニケーション障害への対応の基本	障害の特性に応じたコミュニケーション
2	障害の特性に応じたコミュニケーション①	
3	障害の特性に応じたコミュニケーション②	
4	障害の特性に応じたコミュニケーション③	
5	障害の特性に応じたコミュニケーション④	
6	障害の特性に応じたコミュニケーション⑤	
7	レクリエーションについて①	
8	レクリエーションについて②	
9	レクリエーションについて③	
10	レクリエーションの実践①	
11	レクリエーションの実践②	
12	レクリエーションの実践③	
13	レクリエーションの実践④	
14	レクリエーションの実践⑤	
15	レクリエーションの実践⑥	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

コミュニケーション技術（中央法規）

5.単位認定評価方法

実技50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士の実務経験を活かし、コミュニケーションについて考えを深め、実践から学べるよう指導する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	コミュニケーション技術Ⅱ－1	授業形態	演習	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	家族とのコミュニケーションについて理解を深めることができる。学生自身が他の学生の前で授業を展開し、「伝えること」「聴くこと」を体験から理解を深めることができる。
◆概要	家族とのコミュニケーション、共に働く仲間とのコミュニケーションについて学ぶ。学生自身が授業を行い、伝えること、聴くことについて体験を通して学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	介護における家族とのコミュニケーション（家族との関係づくり）	介護における家族とのコミュニケーション
2	介護における家族とのコミュニケーション（家族への助言・指導・調整）	
3	介護における家族とのコミュニケーション（家族関係と介護ストレスへの対応）	
4	介護におけるチームのコミュニケーション（報告・連絡・相談の技術①）	介護におけるチームとのコミュニケーション
5	介護におけるチームのコミュニケーション（報告・連絡・相談の技術②）	
6	介護におけるチームのコミュニケーション（報告・連絡・相談の技術③）	
7	学生による「授業」のオリエンテーション①	
8	学生による「授業」のオリエンテーション②	
9	学生による「授業」のオリエンテーション③	
10	学生による「授業」	
11	学生による「授業」	
12	学生による「授業」	
13	学生による「授業」	
14	学生による「授業」	
15	学生による「授業」	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

コミュニケーション技術（中央法規）

5.単位認定評価方法

実技50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士の実務経験を活かし、コミュニケーションについて考えを深め、実践から学べるよう指導する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	コミュニケーション技術Ⅱ－2	授業形態	演習	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	記録の必要性と方法が理解できる。会議の進め方を体験を通して理解することができる。演劇の製作から実演までを行い、「想像力」「創造力」「関心力」「表現力」を養うことができる。
◆概要	記録方法、会議の進行方法を学ぶことでチームでのコミュニケーション力を養う。「演劇」の組み立てから実演までを行い、「想像力」「創造力」「関心力」「表現力」を養う。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	介護におけるチームのコミュニケーション（記録の技術①）	介護におけるチームのコミュニケーション
2	介護におけるチームのコミュニケーション（記録の技術②）	
3	介護におけるチームのコミュニケーション（記録の技術③）	
4	介護におけるチームのコミュニケーション（会議・議事進行・説明の技術①）	
5	介護におけるチームのコミュニケーション（会議・議事進行・説明の技術②）	
6	介護におけるチームのコミュニケーション（会議・議事進行・説明の技術③）	
7	事例検討に関する技術①	
8	事例検討に関する技術②	
9	事例検討に関する技術③	
10	情報の活用と管理のための技術	
11	「演劇」オリエンテーション	
12	「演劇」準備	
13	「演劇」準備	
14	「演劇祭」	
15	「演劇祭」	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

コミュニケーション技術（中央法規）

5.単位認定評価方法

実技50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士の実務経験を活かし、コミュニケーションについて考えを深め、実践から学べるよう指導する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	生活支援技術Ⅰ－1	授業形態	演習	学年	1
総授業数	50時間	授業場所	校内・基礎介護実習室　他	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	生活支援技術全般に関わるボディメカニクスについて理解し、あらゆる演習においてボディメカニクスを意識した支援ができる。
◆概要	前半はボディメカニクスについて学び、環境整備（主にベッドメイキング）や移動の支援を演習を中心に学んでいく中で、ボディメカニクスも身につけていく。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～2	オリエンテーション	
3	自立に向けた移動の介護とは	自立に向けた移動の介護
4～5	移動・移乗の基本的理解（ボディメカイクスの原理）	
6	移動・移乗の基本的理解（ボディメカニクスの活用）	
7～8	自立に向けた居住環境の整備	自立に向けた居住環境の整備
9～17	休息・睡眠環境を整える（2人でのベッドメイキング）	休息・睡眠の介護
18～19	体位変換の介助（体位について）	自立に向けた移動の介護
20	体位変換の介助（仰臥位→側臥位）	
21～26	休息・睡眠環境を整える（1人でのベッドメイキング）	休息・睡眠の介護
27	体位変換の介助（水平移動）	自立に向けた移動の介護
28	体位変換の介助（上方移動）	
29	体位変換の介助（福祉用具を活用した体位変換）	
30	体位変換の介助（起き上がり）	
31	体位変換の介助（端座位→立位）	
32	体位変換の介助（立位→端座位）	
33～34	安楽な姿勢・体位を保持する介助	
35～39	車いす介助	
40～41	移動・移乗のための道具・用具	福祉用具の意義と活用
42～45	歩行の介助	自立に向けた移動の介護
46～48	福祉車両の基本	福祉用具の意義と活用
49～50	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%（筆記25%実技25%）　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士として勤務して培った能力・技術を生かし介護実践における技術や講義を行い利用者個々の状況に応じた介護技術ができるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	深澤　栄美子　　（実務経験あり）		
科目名	生活支援技術Ⅰ－2	授業形態	演習	学年	1
総授業数	40時間	授業場所	校内・基礎介護実習室　他	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	「生活」とは何かを理解し介護福祉士が行う生活支援の基本的な技術・知識・利用者に対する介護方法をを習得することができる。
◆概要	前期学習では主に身支度の介護・食事の介護を習得し、様々な利用者に合わせた介護方法とその根拠を身に付けることができる。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	介護とは何か	
2・3	生活支援とは何か	
4	生活の定義	
5	生活の場の特徴	
6・7	生活の場の特徴（自分の生活から考える）	
8	生活経営について	
9～11	生活時間とは	
12	介護福祉士と生活支援	
13・14	生活支援の技法	
15	手洗い・エプロンの役割、使い方について	
16	ICF（国際生活機能分類）を生活支援に生かす	
17～19	自立に向けた身じたくの介護　身じたくの意義と目的	自立に向けた身じたくの介護
20・21	衣服着脱の介助の実際　自立度が高い利用者の場合	
22	衣服着脱の介助の実際　自立度が高い利用者の場合（前開きの上着の場合）	
23・24	ズボンの着脱の介助	
25～27	衣服着脱の介助の実際　自立度が高い利用者の場合（かぶりの上着の場合）	
28・29	自立に向けた食事の意義と目的　自立した食事とは	自立に向けた食事の介護
30	自立した食事の一連の流れとは　摂食・嚥下の流れ	
31	自立した食事の一連の流れとは　摂食・嚥下の流れ	
32～34	楽しい食事のための環境づくりとはなにか	
35	利用者の状態に合わせた食事形態	
36	利用者の状態に応じた食事の介助　食事姿勢について	
37～39	食卓で行う食事の介助　部分介助が必要な利用者	
40	テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規）　潜在力を引き出す介助（中央法規）　安全・やさしい介護術（西東社）
基礎看護技術ビジュアルブック（照林社）

5.単位認定評価方法

授業態度30%　提出物10%　テスト50%　出席率10%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

介護福祉士、介護支援専門員として勤務して培った能力・技術を生かし介護実践における技術や講義を行い利用者個々の状況に応じた介護技術ができるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	生活支援技術Ⅱ－1	授業形態	演習	学年	1
総授業数	80時間	授業場所	校内・基礎介護実習室　他	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	排泄や入浴の支援技術を習得することはもちろん、よりプライバシーへの配慮が必要となる支援であることを理解し実践することができる。
◆概要	排泄や入浴といった支援技術を通して、プライバシーへの配慮について学ぶ。後半は応用編として、より実践的な事例を使い学習を深める。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～3	前期の復習	
4	生活支援における福祉用具の意義と活用	福祉用具の意義と活用
5	福祉用具の種類	
6	適切な福祉用具を選ぶための視点	
7～8	自立に向けた排泄の介護	自立に向けた排泄の介護
9～12	自立に向けた排泄の介護（ポータブルトイレ）	
13～21	自立に向けた排泄の介護（床上排泄）	
22～27	自立に向けた排泄の介護（紙おむつ）	
28～30	自立に向けた排泄の介護（布おむつ）	
31～32	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	
33	自立に向けた入浴・清潔保持の介護（個浴）	
34～36	自立に向けた入浴・清潔保持の介護（特殊浴槽）	
37	自立に向けた入浴・清潔保持の介護（その他の入浴方法）	
38～40	あいサポーター研修	
41～45	休息・睡眠の介護	休息・睡眠の介護
46～48	福祉車両演習	福祉用具の意義と活用
49～54	事例による生活支援の応用	
55～57	試験	
58～59	解説	
60～64	肢体不自由に応じた介護～肢体不自由の理解～	
65～69	肢体不自由に応じた介護～生活上の困りごと（観察の視点）～	
70～74	肢体不自由に応じた介護～支援の展開～	
75～79	肢体不自由に応じた介護～肢体不自由に応じた生活支援の実際（事例）～	
80	掃除	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%（筆記25%実技25%）　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士として勤務して培った能力・技術を生かし介護実践における技術や講義を行い利用者個々の状況に応じた介護技術ができるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	深澤　栄美子　　（実務経験あり）		
科目名	生活支援技術Ⅱ－2	授業形態	演習	学年	1
総授業数	40時間	授業場所	校内・基礎介護実習室　他	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	「生活」とは何かを理解し介護福祉士が行う生活支援の基本的な技術・知識・利用者に対する介護支援方法をを習得することができる。
◆概要	後期学習では主にベッド上での身支度や食事の支援、口腔ケア、福祉用具の種類や使い方を習得し、様々な利用者に合わせた介護方法とその根拠を身に付けることができる。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～8	ベッド上での衣服着脱の介助（全般にわたり介助が必要な場合）	
9	身支度の介護における他職種との連携	
10	洗顔・整髪・ドライヤーのかけかたについて	
11	洗顔・整髪・ドライヤーのかけかたについて	
12～17	ベッド上で行う食事の介助　（片麻痺・嚥下障害あり・座位が保てない動作全般に介助が必要な方）	
18・19	食事の介護における他職種との連携	
20・21	介護福祉士が行う口腔ケアの意義	
22～25	自立へ向けた口腔ケアの種類・口腔ケアの全身への効果	
26	自分の口の中を見てみよう（口腔内の汚れが付きやすい部分は）	
27～28	自分の口の中を見てみよう	
29	歯の磨き方・口腔の清拭法	
30～31	口腔ケアの実施時の留意点　利用者の姿勢・ベッド上の姿勢・座位での介助（介護者の姿勢）	
32・33	義歯の清掃法・全部床義歯と部分床義歯の着脱方法・義歯の清掃と管理	
34	利用者の状態に応じた介助の視点	
35～36	歯磨きの介助の実際（事例を用いた演習）	
37	福祉用具の意義・提供のプロセス	福祉用具の意義と活用
38	福祉用具を選ぶためのアセスメントの視点	
39	福祉用具の適合・モニタリングの視点	
40	テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規）　潜在力を引き出す介助（中央法規）

5.単位認定評価方法

授業態度30%　提出物10%　テスト50%　出席率10%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.　その他

介護福祉士、介護支援専門員として勤務して培った能力・技術を生かし介護実践における技術や講義を行い利用者個々の状況に応じた介護技術ができるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	生活支援技術Ⅲ－1①	授業形態	演習	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・基礎介護実習室　他	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	車いす体験において、車いす利用者の気持ち、支援者の気持ちが理解できる。また、「バリア」「バリアフリー」について理解を深めることができる。家事の基本を体験を通して身に着けることができる。
◆概要	車いす体験の計画、実施、まとめを行い、地域のバリアフリー化はどの程度進んでいるのか、そしてその地域で生活する車いす利用者をはじめとする障害者の気持ちを理解する。家事支援の体験をする。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～2	1年次の復習	
3～4	車いす体験の計画	自立に向けた移動の介護
5～10	車いす体験	
11～12	車いす体験まとめ	
13～14	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護
15	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士として勤務して培った能力・技術を生かし介護実践における技術や講義を行い利用者個々の状況に応じた介護技術ができるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	輪湖　史也　　（実務経験あり）		
科目名	生活支援技術Ⅲ－1②	授業形態	演習	学年	2
総授業数	9時間	授業場所	校内・基礎介護実習室　他	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	認知症以外にも様々な身体状況、注意点、制限のある患者や利用者の事例を使い演習を行うことで、安全でその人らしい生活をおくれる支援を考える視点を身につける。
◆概要	透析を行っている人の事例を用いて、対応方法を考え実践する。発表をすることでそれぞれの考えを共有する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	透析を行っている人の特徴	
2	透析を行っている人の注意点	
3	事例（透析後に転倒）	
4	グループで事例の対応方法を考える	
5	グループで事例の対応方法を考える	
6	グループで事例の対応方法を考える	
7	対応方法と注意点、工夫したことを実技で発表	
8	対応方法と注意点、工夫したことを実技で発表	
9	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

生活支援技術Ⅲ（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　出席状況25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士として勤務して培った能力・技術を生かし介護実践における技術や講義を行い利用者個々の状況に応じた介護技術ができるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪　広美　　（実務経験あり）		
科目名	生活支援技術Ⅲ－1③	授業形態	演習	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・基礎介護実習室　他	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	事例を通して、関わる人の考えや生活を尊重した支援方法を考え実践する。また、関わる人の役を通して、その人の気持ちを理解し実践に活かすことができるよう振り返ることができる。実践を通じて介護過程の展開の意義について理解する。
◆概要	・寝たままでの衣類の着脱を事例を使い実践する。 ・ポジショニングの基本的知識を学ぶ。 ・ポジショニングの基本的知識の基に体圧計を用いながらアセスメントしポジショニングを実践する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	ベッド上で行う衣類の着脱（事例を読み介助時の観察項目を考える）	自立に向けた身じたくの介護
2	ベッド上で行う衣類の着脱（介助の手順を考える）	
3	ベッド上で行う衣類の着脱の実践と記録	
4	ベッド上で行う衣類の着脱の実践と記録	
5	ベッド上で行う衣類の着脱の実践と記録	
6	ベッド上で行う衣類の着脱の実践と記録	
7	ベッド上で行う衣類の着脱の実践と記録	
8	ベッド上で行う衣類の着脱介助の振り返りと記録の確認	
9	体位変換（ポジショニング）の基本	
10	ポジショニングに必要なアセスメント	
11	体位変換（ポジショニング）の介護	
12～13	体位変換（ポジショニング）の介護　体圧の計測	
14～15	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規）　・これで安心　症状・状況別　ポジショニングガイド（中山書店）

5.単位認定評価方法

・出席状況15％
・授業態度25％
・試験60％（筆記30％・実技30％）

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

看護師として勤務して培った能力・技術を生かし介護実践における技術や講義を行い利用者個々の状況に応じた介護技術ができるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪　広美　　（実務経験あり）		
科目名	生活支援技術Ⅲ－2①	授業形態	演習	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・基礎介護実習室　他	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	事例を通して、関わる人の考えや生活を尊重した支援方法を考え実践する。また、関わる人の役を通して、その人の気持ちを理解し実践に活かすことができるよう振り返ることができる。実践を通じて介護過程の展開の意義について理解する。
◆概要	・全身清拭の意義と技術、モデルを通じて対象者の気持ちの理解を学ぶ。 ・家族支援の必要性と家族との連携を理解する。 ・事例を通じ家族支援の実践について計画し、演習を通じてその方法を学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	寝たままで行う全身清拭その必要性と意義	自立に向けた入浴・清潔保持の介護
2	全身清拭・部分清拭の介護	
3	全身清拭・部分清拭の介護	
4	全身清拭・部分清拭の介護	
5	全身清拭・部分清拭の介護	
6	全身清拭・部分清拭の介護	
7	高齢者・障害者（児）の家族支援の意義	
8	高齢者・障害者（児）の家族支援の意義	
9	家族支援と多職種連携	
10	家族支援と多職種連携	
11	高齢者退所時の家族支援の実践計画	
12	高齢者退所時の家族支援の実践	
13	高齢者退所時の家族支援の実践	
14	高齢者退所時の家族支援の実践	
15	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・生活支援技術Ⅱ（中央法規）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%⊡授業態度25%⊡試験60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

看護師として勤務して培った能力・技術を生かし介護実践における技術や講義を行い利用者個々の状況に応じた介護技術ができるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	輪湖　史也　　（実務経験あり）		
科目名	生活支援技術Ⅲ－2②	授業形態	演習	学年	2
総授業数	21時間	授業場所	校内・基礎介護実習室　他	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	認知症以外にも様々な身体状況、注意点、制限のある患者や利用者の事例を使い演習を行うことで、安全でその人らしい生活をおくれる支援を考える視点を身につける。
◆概要	事例を使い、様々な疾患や障害に応じた介護方法を学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	尿道カテーテルを留置している人の特徴と注意点	
2	事例（バルンバッグの自己管理）	
3～4	グループで事例の対応方法を考える	
5	対応方法と注意点、工夫したことを実技で発表	
6	対応方法と注意点、工夫したことを実技で発表とまとめ	
7	パーキンソン病の症状や特徴	
8	パーキンソン病の注意点	
9	事例（歩行時の転倒）（安全な生活環境作り）	
10～12	グループで事例の対応方法を考える	
13	対応方法と注意点、工夫したことを実技で発表とまとめ	
14	高次脳機能障害について	
15	事例（一連の動作が正しく行えない）	
16～17	グループで事例の対応方法を考える	
18～20	対応方法と注意点、工夫したことを実技で発表	
21	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

生活支援技術Ⅲ（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　出席状況25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士として勤務して培った能力・技術を生かし介護実践における技術や講義を行い利用者個々の状況に応じた介護技術ができるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	生活支援技術Ⅲ－2③	授業形態	演習	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・基礎介護実習室　他	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	終末期の利用者とその家族の気持ちが理解できる。支援者としての心構えができる。災害時の介護福祉士としての役割を理解する。
◆概要	終末期について、本人、家族、支援者それぞれの立場について学ぶ。災害時の介護福祉士の役割について学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～6	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護
7～9	災害時における生活支援	
10～12	試験	
13～14	まとめ	
15	掃除	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%（筆記25%実技25%）　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士として勤務して培った能力・技術を生かし介護実践における技術や講義を行い利用者個々の状況に応じた介護技術ができるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	深澤　栄美子　　（実務経験あり）		
科目名	介護過程Ⅰ	授業形態	演習	学年	1
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	ICF（国際生活機能分類）を理解、活用しながら、利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、その思考過程を理解することができる。
◆概要	前期学習では介護過程の意義・目的、アセスメント（情報収集・情報の解釈関連付け・統合化）、計画の立案について学習する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	介護過程の意味、目的が理解できる。	介護過程の意義と基礎的理解
2	介護過程の意義、展開のプロセスが理解できる。	
3	介護過程の一連の各構成要素が理解できる。（アセスメント⇒計画の立案⇒実施⇒評価）	介護過程の展開の理解
4	科学的思考過程の意味について理解できる。（問題解決過程）	
5	ICF国際生活機能分類についての理解と活用について（ICFの構成要素と定義）	
6	ICF国際生活機能分類の目的、実践意義についての理解（構成要素の相互作用）	
7	ICF国際生活機能分類の目的、実践意義についての理解	
8～9	アセスメントを理解する（情報の種類と情報収集の目的が理解できる）	
10	介護過程に必要な情報が理解できる（情報収集のための各、アセスメントツールの活用）	
11	情報収集の方法（主観的情報・客観的情報とは）	
12	情報収集をする際の留意点	
13	情報の解釈・関連付け・統合化とは	
14～15	情報の解釈・関連付け・統合化の方法	
16	課題の明確化とは	
17	課題の優先順位が理解できる	
18	アセスメントの実際（事例を使って）本人の思いを合わせて考える	
19	情報整理シートへ記入する(シートの構成と概要を理解する)	
20	基本情報シートから分析の視点、着目点について理解する	
21～22	情報の背景・要因をICFの関連図を活用し情報を線で結んで考える	
23～24	情報の解釈と関連付け統合化について事例を通して理解する	
25	課題の明確化とその留意点（利用者のニーズとは）	
26～28	実習Ⅰ－1の受け持ち利用者のアセスメントについて考える	
29～30	アセスメントの発表	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

介護過程　（中央法規）　ICFの理解と活用（きょうされん）

5.単位認定評価方法

授業態度50%　提出物40%　出席率10%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

介護福祉士、介護支援専門員としての実務経験を活かし利用者のよりよい生活に向けた、介護過程の展開のプロセスやその意味につて理解できるよう演習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	深澤　栄美子　　（実務経験あり）		
科目名	介護過程Ⅱ	授業形態	演習	学年	1
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護実習Ⅰ-1を終え受け持ち利用者の生活状況からICF（国際生活機能分類）の各項目を振り返り、アセスメントとは何かをを学習する。
◆概要	後期授業では介護計画の立案について学習する。また、ケアプランと介護計画書との連動を学習する。サービス担当者会議の意義・目的について学習し会議における介護福祉士の役割について学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	介護計画の立案とは何か（意義・目的）	
2	ケアの標準化と個別化の視点	
3～4	ケアプラン（介護サービス計画）と介護計画（個別援助計画）との連動	
5	介護保険制度におけるサービス計画書の位置づけ	
6	ケアプランと個別援助計画の関係性	
7	介護過程とケアマネジメントの関係性	
8	介護保険制度におけるケアマネジメントの流れ	
9	目標とはなにか（長期目標・短期目標）	
10	介護保険サービスにおけるサービス計画の位置付け	
11～12	目標設定の方法・目標の表現方法	
13	優先順位の決定について	
14～15	具体的な支援内容・支援方法の決定について	
16～19	Ⅰ-1受け持ち利用者の計画の立案につて考える	
20～22	支援内容・支援方法について考える	
23	サービス担当者会議とは	
24～25	サービス担当者会議とは担当者会議における介護福祉士の役割	
26～27	チームアプローチの必要性	介護過程とチームアプローチ
28	「実施」とは何か	
29	「実施」の際の留意点とは	
30	介護実践の記録について	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

介護過程　（中央法規）　「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用（中央法規）
ICFの理解と活用（萌文社）

5.単位認定評価方法

授業態度50%　提出物40%　出席率10%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

介護福祉士、介護支援専門員としての実務経験を活かし利用者のよりよい生活に向けた、個別援助計画書、個別支援計画書作成やケアマネジメントと介護計画書等の連動について講義し理解する教科とする。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	深澤　栄美子　　（実務経験あり）		
科目名	介護過程Ⅲ－1	授業形態	演習	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要	
◆到達目標	2年次前期学習では、Ⅰ-3実習へ向けた障害者総合支援法における障害福祉サービス、サービス等利用計画書、個別支援計画書の連動について理解できる。
◆概要	障害者の生活について理解し、実習や学内学習においてアセスメントを行い介護過程の展開を理解する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	実習Ⅰ－3へ向けて障害支援計画書についての概要を知る	
2	障害者総合支援法とサービス等利用計画書、介護支援計画書についての理解・連動	
3～5	生活地図を活用し利用者の全体像を理解する（実習の書式を用いて理解する）	
6～7	実習Ⅰ－3へ向け障害関連事業で生活する障害者のアセスメントについて理解する	
8～10	実習Ⅰ－3の書式に合わせて利用者基本情報について学びアセスメントへ繋げる学習をする	
11～15	事例を使って障害者のアセスメントを理解する（学校の書式、事例を用いて）	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

介護過程（中央法規）　障害のある子の支援計画作成事例集（中央法規）　これならわかる障害者総合支援法（翔泳社）

5.単位認定評価方法

授業態度50%　提出物40%　出席率10%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.　その他

介護福祉士、介護支援専門員としての実務経験を活かし利用者のよりよい生活に向けた、個別援助計画書、個別支援計画書作成やケアマネジメントと介護計画書等の連動について理解する教科とする。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	深澤・大輪・鈴木・百瀬		
科目名	介護過程Ⅲ－2	授業形態	演習	学年	2
総授業数	75時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	「実施」・「評価」についての意義、目的、方法について学習する。また介護記録の目的、記入方法、観察項目について理解することができる。
◆概要	実習記録を活用し実習Ⅱ（介護過程の展開）へ向け事例を用いて学習し、クラスメイトと情報共有し理解を深める。実習Ⅱ終了後はケーススタディをまとめ発表する。介護過程の一連のプロセスを習得する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～4	実習Ⅰ-3の受け持ち利用者の情報、ICFの各構成要素からアセスメントをまとめる	
5～6	アセスメントまでの発表	
7	実施内容・支援方法の確認と介護職間での共有について	
8	介護職間の情報共有について事例を用いて学習する	
9～11	実施の際の留意点について（自立支援・尊厳の保持）	
12～14	安全と安心を守るための留意点について	
15	実施の記録についての理解	
16	支援経過記録の目的	
17～22	記録の実際（事例を用いて記録について学習する）	
23～24	「評価」の意義と目的について	
25	「評価」のプロセスと視点	
26	長期目標・短期目標に対する評価について	
27	計画通りに実施できていない場合の理由	
28	評価の際の留意点	
29	計画修正の必要性の検討	
30～33	実習Ⅱに向けて事例を用いた介護過程の展開方法を学ぶ（介護過程の意義・目的の確認）	
34～35	事例についてグループごとに情報共有を行う	
36	介護過程まとめ　実習へ向けて	
37～39	実習記録のまとめ	
40～41	ケーススタディとは何か	
42	文献の活用方法	
43～60	ケーススタディ（実習受け持ち利用者の介護過程の展開について研修する）	
61～70	ケーススタディ発表	
71～75	発表後クラスメイトの事例から改めて介護過程の展開について考える	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

介護過程　（中央法規）　　すぐに役立つ事例のまとめ方と発表のポイント（中央法規）

5.単位認定評価方法

授業態度50%　提出物40%　出席率10%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

介護福祉士、介護支援専門員としての実務経験を活かし利用者のよりよい生活に向けた、個別援助計画書、個別支援計画書作成やケアマネジメントと介護計画書等の連動について理解する教科とする。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪・鈴木・深澤　　（実務経験あり）		
科目名	介護総合演習Ⅰ	授業形態	演習	学年	1
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	実習Ⅰ-1へ向けた演習とし、実習先の特徴や実習での学習の目的、目標について理解できる。
◆概要	様々な利用者に出会い、暮らしの場が理解でき、コミュニケーションをとることができるよう実習に向けた事前学習および、振り返りの時間とする。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	［前指導］実習要項の説明（共通・目標・目的・概要・課題・記録について）	
2～4	実習要項の説明（共通・目標・目的・概要・課題・記録について）	
5～6	実習個人票の作成	
7～9	各領域で学んだ知識を確認し技術と統合する	知識と技術の統合
10～11	実習目標の立案（個々で毎日の実習目標を作成する）	
12～15	実習先の概要を調べ個人でまとめる/巡回教員面談	
16～18	宣誓式	
19	［後指導］お礼状作成・実習まとめ・記録のまとめ	
20～27	お礼状作成・実習まとめ・記録のまとめ	
28～30	Ⅰ－１実習報告会を通して自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

松本医療福祉専門学校実習要項2021

5.単位認定評価方法

授業態度50%　提出物25%　出席率25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

看護師、介護福祉士、相談支援専門員として勤務し培った能力・技術を生かし実習Ⅰ－１に向け、高齢者の暮らしや施設の概要が理解できるよう、準備を進めていく科目とする。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪・鈴木・深澤　　（実務経験あり）		
科目名	介護総合演習Ⅱ	授業形態	演習	学年	1
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	実習Ⅰ-2へ向けた演習とする。実習先の特徴や実習での学習の目的、目標について理解できる。
◆概要	利用者が在宅でどのように暮らしているのか、介護福祉士が在宅支援にどのように関わっているのかを事前に学習することで実習へ向けた心構えや実習後、振り返りを行う。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	［前指導］実習要項の説明	
2	実習要項の説明	
3～4	個人票の作成	
5～6	介護保険サービスにおける在宅サービスについて	
7～9	実習目標の立案（個人でまとめる）	
10～15	エコマップの作成について（事例を通して学習する）	
16～18	事業所の概要を調べ個人でまとめる/巡回教員面談	
19	［後指導］お礼状作成・実習まとめ・記録のまとめ	
20～27	お礼状作成・実習まとめ・記録のまとめ	
28～30	Ⅰ－2実習報告会	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

松本医療福祉専門学校実習要項2021

5.単位認定評価方法

授業態度50%　提出物20%　出席率30%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7．その他

看護師、介護福祉士、相談支援専門員として勤務し培った能力・技術を生かし実習Ⅰ－３に向け、障害者施設や就労支援事業での介護福祉士の役割が理解できるよう準備・指導していく科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪・鈴木・深澤　　（実務経験あり）		
科目名	介護総合演習Ⅲ	授業形態	演習	学年	2
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	実習Ⅰ-3へ向けた演習とする。実習先の特徴や、実習での学習の目的、目標について学習する。
◆概要	障害者関連事業所および障害施設において障害者がどのように生活しているのかを事前に理解することで実習へ向けた心構えや振り返りができる。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～2	実習要項の説明	
3	実習個人票の作成	
4～6	事業所の概要を調べまとめる	
7～9	実習目標の立案	
10～15	事業所への挨拶（事業所の概要把握・オリエンテーション）	
16～18	事例検討　生活地図	
19	［後指導］お礼状作成・実習まとめ・記録のまとめ	
20～27	お礼状作成・実習まとめ・記録のまとめ	
28～30	Ⅰ－3実習報告会	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

松本医療福祉専門学校実習要項2021

5.単位認定評価方法

授業態度50%　提出物20%　出席率30%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

看護師、介護福祉士、相談支援専門員として勤務し培った能力・技術を生かし実習Ⅰ－３に向け、障害者施設や就労支援事業での介護福祉士の役割が理解できるよう準備・指導していく科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪・鈴木・深澤　　（実務経験あり）		
科目名	介護総合演習Ⅳ	授業形態	演習	学年	2
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	実習Ⅱへ向けた学習とし、受け持ち利用者の一連の介護過程が展開できるよう実習に向けて取り組むことができる。
◆概要	高齢者福祉施設において、一人の利用者に焦点をあてた一連の介護過程の展開ができるよう、事前学習及び実習後の振り返りを行う。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～3	実習目標の立案	
4～7	個別援助計画書に基づいた介護職員で行うカンファレンス（事例を通して学習する）	
8	介護過程の展開へ向けた観察項目の確認	
9	介護過程、評価についての学習	
10～15	実習先挨拶（施設の概要把握・オリエンテーション）	
16～18	実習先概要まとめ/巡回教員面談	
19	［後指導］お礼状作成・実習まとめ・記録のまとめ	
20～24	お礼状作成・実習まとめ・記録のまとめ	
25～26	介護過程の展開に向けた観察項目の確認と介護実践の科学的根拠を考える	介護実践の科学的探求
27	受け持ち利用者から事例研究の意義やその方法を理解する	
28～30	Ⅱ実習報告会	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

松本医療福祉専門学校実習要項2021

5.単位認定評価方法

授業態度50%　提出物20%　出席率30%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

看護師、介護福祉士、相談支援専門員として勤務し培った能力・技術を生かし実習Ⅱに向け、個別支援計画書の立案ができるよう準備・指導していく科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪・鈴木・深澤　　（実務経験あり）		
科目名	介護実習Ⅰ－1	授業形態	実習	学年	1
総授業数	117時間	授業場所	実習施設	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要	
◆到達目標	実習Ⅰ－１では介護老人福祉施設及び介護老人保健施設において利用者を理解し、受け持ち利用者の一日の流れ、心身の状況、今までの暮らしを理解する。学習した人権擁護や職業倫理の知識をもとに、個人情報保護・介護記録の管理・苦情処理・身体拘束・高齢者虐待・事故発生時の対応・感染症対策・災害時の対応を知る。施設が利用者に対して行う契約の内容から施設サービスの内容を知り、利用者の自己選択・自己決定の過程を知る。施設の職員構成と各職種の役割を知る。コミュニケーション技術を活用し利用者や職員へ適切な言葉遣いができる。
◆概要	介護職員の業務の補助に付き利用者への接し方・生活支援技術の基本を学ぶ。実習指導者に相談しながら受け持ち利用者を決定し学校の書式をもとに情報収集する。利用者の基本情報から、国際生活機能分類（ICF）の関連図を考えアセスメントⅠの記録用紙に記入する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～28	実習一日目：オリエンテーションの実施 介護職員の業務の補助に付き利用者への接し方・生活支援技術の基本を学ぶ。学校の書式をもとに施設の概要（事業所の法的根拠・目的・機能・運営）を理解する。また、人権擁護や職業倫理に関する理解を深める。記録用紙（事業の概要Ⅰ・Ⅱ、課題Ⅰ～Ⅳ）に記入し実習指導者、巡回教員に報告する。実習記録は毎日記入し実習指導者へ提出する。	
29～57	受け持ち利用者を決定し、学校の書式をもとに情報収集する。コミュニケーションを図りながら、利用者の基本情報（生活暦・入居の理由・要介護度・日常生活自立度・認知症の程度・居室の見取り図・構成・一日の過ごし方・健康状態）について情報収集する。実習記録は毎日記入し実習指導者へ提出する。	
58～86	受け持ち利用者の情報収集（ADL：移動・移乗・更衣・食事・排泄・入浴・清潔保持・睡眠・コミュニケーション・余暇の過ごし方・趣味・意欲・関心事・信仰・宗教・対人関係　IADL：食事の支度・薬の管理・整理整頓・掃除・洗濯・ゴミ出し・金銭管理・買い物・電話の対応）をする。実習記録は毎日記入し実習指導者へ提出する。	
87～117	利用者の基本情報から、国際生活機能分類（ICF）の関連図を考えアセスメントⅠの記録用紙を作成する。危険予知トレーニング・プロセスレコード・自主学習を書く。実習記録は毎日記入し実習指導者へ提出する。 ※実習全体を通し、基本的介護技術を学習し食事・排泄等の準備から片付けまでの補助を行う。連絡・報告・相談を心がけ指定された期日までに実習記録を提出する。	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

松本医療福祉専門学校実習要項（2021）

5.単位認定評価方法

実習における総時間数の8割以上の出席をすること。実習目標及び課題を達成する。実習指導者と巡回教員が実習評価表Ⅰ－1において評価し、指導者総合評価を勘案し巡回教員が最終評価を決定する。

6.成績評価の基準

5．による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ,Ｄ総合的に判断しＤ評価の付いた学生は、再実習とする。

7．その他

看護師、介護福祉士、介護支援専門員として勤務し培った能力・技術を生かし初めての大きな施設実習についての概要や高齢者の暮らしについて理解できるように指導していく科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪・鈴木・深澤　　（実務経験あり）		
科目名	介護実習Ⅰ－2	授業形態	実習	学年	1
総授業数	117時間	授業場所	実習施設	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要	
◆到達目標	訪問介護事業所・通所介護・通所リハビリテーション・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護において利用者や家族の生活を理解する。各事業所がある地域の特性、サービスの目的、機能、運営方針、職員の業務内容を知る。各事業所の介護活動の理解し在宅サービスのおける基本的生活支援技術（送迎・家事援助を含む）を学べる。
◆概要	在宅サービスにおいて、各事業者が利用者や家族に対しどのような役割やあるのかを学ぶ。介護職員間、多職種、家族との情報の共有を学ぶ。・通所介護事業所におけるレクリエーションの実践から、学生自らが計画し実践し振り返る。実践した内容を実習記録にわかりやすく書く。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～28	訪問介護事業所（以下「訪問」）に2日間、通所介護または通所リハビリテーション、認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護（以下「通所等」）のいずれかの事業所に11日間、計13日間の実習をする。 「通所等」 ・実習一日目：オリエンテーションの実施	
29～57	事業の概要として次の項目について把握し記録する。実習事業所名、事業所の所在地、事業所の開設年度、経営主体が行っている他の事業、利用者の費用負担（介護保険料・食事代・居住費・福祉用具貸与費など）、利用者人数、個人情報の保護、介護記録の管理方法、苦情への対応、インシデント、事故発生時の対応。	
58～86	在宅サービスにおける様々な概要について把握する 「訪問」 ①職員間の情報共有方法を把握し記録する。 ②職員の勤務形態を把握し記録する。 ③家族や他専門職との情報共有について把握し記録する。 ④緊急時の対応について把握し記録する。 「通所等」 ①レクリエーションや行事の企画について把握し記録する。 ②家族や他職種との情報共有について把握し記録する。 ③送迎時（送迎前後、送迎中、送迎先）の注意点を把握し記録する。	多職種協働の実践
87～117	その他の課題に取り組む ・実習記録は毎日記入し実習指導者へ提出する。 ・特定の利用者から情報収集を行い社会関係図（エコマップ）を作成する。エコマップの作成を通して利用者が地域の住民や施設・機関とどのように関わっているか学習し生活支援の実践を学ぶ。 ・プロセスレコードを作成する。 ・危険予知トレーニングシートを作成する。 ・自主学習を行い、事業内容・関係する法律・制度・障害・疾患の特性・利用者の暮らしについて調べ記入用紙に記録する。	地域における生活支援の実践

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

松本医療福祉専門学校実習要項（2021）

5.単位認定評価方法

実習における総時間数の8割以上の出席をすること。実習目標及び課題を達成する。実習指導者と巡回教員が実習評価表Ⅰ－2において評価し、指導者総合評価を勘案し巡回教員が最終評価を決定する。

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ,Ｄ総合的に判断しＤ評価の付いた学生は、再実習とする。

7. その他

看護師、介護福祉士、介護支援専門員として勤務し培った能力・技術を生かし在宅サービスが理解できるよう指導していく科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪・鈴木・深澤　　（実務経験あり）		
科目名	介護実習Ⅰ－3	授業形態	実習	学年	2
総授業数	117時間	授業場所	実習施設	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	学習した知識をもとに、障害者総合支援法に基づく施設・事業所の運営方針、各職員の役割、機能、サービス内容等の実際を知ることができる。受け持ち利用者を通して障害のある人を理解することができる。 受け持ち利用者の生活機能に環境因子や個人因子がどのように影響しているか（ICF国際生活機能分類）理解し、個別支援計画書立案に向けアセスメントすることが出来る。
◆概要	障害者福祉関連事業所、施設において利用者の生活を理解するとともに、施設・事業所の概要を理解する。コミュニケーション技術を活用し利用者との適切な距離を保ち、個別的、受容的、支持的にかかわる。毎日の目標を伝達し、観察や援助内容等記録及び報告、連絡、相談する。年下の利用者であっても成人出れば大人としての関りをする等、利用者の人権、人格を尊重することができる実習とする。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～28	実習一日目：実習オリエンテーションを行い法人名、所在地、事業の概要（関連事業・作業工賃・活動時間・作業内容・安全対策・職員の勤務体系・職員教育・送迎等）を把握し記録する。また、利用者の状況について確認し障害のある方の年齢別人数を把握する。家族との協力関係・連携、地域との協力関係・連携についても把握する。施設・事業所の週間予定、年間予定から利用者や職員の予定について把握する。毎日の実習記録（本日の目標・実施内容・実施したこと・学んだこと・感じたこと）を記入する。	
29～57	・受け持ち利用者を決定し、学校の書式を基に情報収集する。 【情報収集の内容】 家族状況、ジェノグラム、居住環境、病歴・障害暦、障害年金、障害支援区分、自立支援給付、地域生活支援給付、日常生活動作、手段的日常生活活動、社会生活について、社会参加について、健康に関して、コミュニケーションについて等を、主観的情報及び客観的情報から情報収集する。 ・毎日の実習記録（本日の目標・実施内容・実施したこと・学んだこと・感じたこと）を記入する。 ・エコマップの作成を通して利用者が地域の住民や施設・機関とどのように関わっているか学習し生活支援の実践を学ぶ。	
58～86	受け持ち利用者の生活暦について把握する。現在の年齢までの各年代についての様子について情報収集する。暮らしの場所や一緒に暮らしていた人、当時の暮らしに様子や印象に残る出来事について把握する。利用者が暮らして行く上で関りを持つ機関・人物・身の回りにある大切な物等を線で結ぶ。	
87～117	受け持ち利用者の情報を利用者の基本情報用紙に記入し、アセスメントⅠ、アセスメントⅡの用紙を用いて情報の解釈・関連付け・統合化を行い、利用者の生活課題を導き出すことができる。	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

松本医療福祉専門学校実習要項2021

5.単位認定評価方法

実習における総時間数の8割以上の出席をすること。実習目標及び課題を達成する。実習指導者と巡回教員が実習評価表Ⅰ－3において評価し、指導者総合評価を勘案し巡回教員が最終評価を決定する。

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ,Ｄを総合的に判断しＤ評価の付いた学生は、再実習とする。

7. その他

看護師、介護福祉士、相談支援専門員として勤務し培った能力・技術を生かし障害関連事業所における概要の把握や、障害者のアセスメントが出来るよう指導する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪・鈴木・深澤　　（実務経験あり）		
科目名	介護実習Ⅱ	授業形態	実習	学年	2
総授業数	198時間	授業場所	実習施設	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	2年間の養成課程の最後の実習として今まで学習した知識や技術を基に、介護過程を展開できる。受け持ち利用者の「アセスメント」から「介護計画の立案」、「実施」、「評価」までを行える。
◆概要	生活支援技術で学んだ学習を基礎に、介護職員の業務の補助につき利用者の接し方・生活支援技術の基本を学びながら、受け持ち利用者を決定する。また多職種業務・多職種連携について学ぶ。学校の書式をもとに受け持ち利用者の情報収集から課題を明確にし介護計画書を立案、実施、評価する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～39	オリエンテーションの実施。事業の概要（法人および事業所の理念・方針・目標、事業の内容、利用者の費用負担、利用者定員、現在利用者数、利用者の介護度または障害支援区分、家族や地域との協力関係・連携、一日の流れ、週間予定、年間予定）を把握・理解し実習記録に記入する。介護福祉士が多職種とどのように協働して介護実践しているのかを掴む。	
40～79	次の項目について情報収集し記録する。個人情報の保護・介護記録の管理方・苦情への対応・インシデント・事故発生時の対応・身体拘束・感染症対策・施設サービス計画書・個別援助計画書について・災害時の対応・終末期ケア・施設全体について・食事環境について・排泄環境について・入浴環境について・実習施設で使われている福祉用具の種類や数、管理方法について・専門職や家族との情報の共有について。また、受け持ち利用者を決定し、情報収集を行う。	
80～119	コミュニケーションを図りながら、利用者の基本情報｛生活暦・入居の理由・要介護度・日常生活自立度・認知症の程度・居室の見取り図・構成・一日の過ごし方・健康状態について・ADL（移動・移乗・更衣・食事・排泄・入浴・清潔保持・睡眠・コミュニケーション・余暇の過ごし方・趣味・意欲・関心事・信仰・宗教・対人関係・IADL：食事の支度・薬の管理・整理整頓・掃除・洗濯・ゴミ出し・金銭管理・買い物・電話の対応）｝を収集し記録用紙へ記入する。	
120～159	情報収集した情報からアセスメントⅠ、Ⅱの用紙を使い利用者の生活課題を導き出し記録用紙に文章化する。導き出した生活課題から介護計画を立案する。立案する際はアセスメントから根拠を明らかにした上で長期目標・短期目標、援助内容、観察項目を考える。受け持ち利用者、実習指導者に相談し同意を得、介護計画書の援助内容を実践する。	介護過程の実践的展開
160～198	介護計画書を基に、介護の「実施」を行う。実施内容は個別介護記録に利用者の変化・反応・学生の関わりや考えを記入し効果的であったか都度ふり返る。介護計画の実施がすべて終了したところで評価表に記録する。評価表をもとに実習生、実習指導者、巡回教員、その他関係者でカンファレンスを行い実施内容や結果についてふり返る。実施結果について自ら調べよかった点悪かった点を含め原因をさぐり、情報収集のサイクルへ戻りより良い生活へ向けた支援を考えていく。 ※実習記録は毎日記入し実習指導者へ提出する。	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

松本医療福祉専門学校実習要項2021

5.単位認定評価方法

実習における総時間数の8割以上の出席をすること。実習目標及び課題を達成する。実習指導者と巡回教員が実習評価表Ⅱにおいて評価し、指導者総合評価を勘案し巡回教員が最終評価を決定する。

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ,Ｄを総合的に判断しＤ評価の付いた学生は、再実習とする。

7. その他

看護師、介護福祉士、介護支援専門員として勤務し培った能力・技術を生かし介護過程の展開が根拠をもってできるよう指導していく科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	発達と老化の理解Ⅰ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	「発達」という言葉の持つ意味をきちんと理解し、人間の発達について理解を深めることができる。介護をするにあたり、人間の発達を学習することがいかに大切かということも体得することができる。
◆概要	生涯発達を中心に発達について学習する。著名な発達心理学者の理論に触れ、発達についての理解を深めていく。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	人間の成長と発達の基礎的理解	人間の成長と発達の基礎的理解
2	成長・発達の原則・法則	
3	成長・発達に影響する要因①	
4	成長・発達に影響する要因②	
5	発達理論①	
6	発達理論②	
7	発達段階と発達課題①	
8	発達段階と発達課題②	
9	身体的機能の成長と発達①	
10	身体的機能の成長と発達②	
11	心理的機能の発達①	
12	心理的機能の発達②	
13	社会的機能の発達①	
14	社会的機能の発達②	
15	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

発達と老化の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての福祉現場での経験を活かし、乳児期から人間はどのように発達をしていくのかについて学びを深めていく。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	発達と老化の理解Ⅱ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	老化とは何か。老化という言葉から抱く固定的なイメージを見つめ直し、生涯発達という観点で老化について考えていく力を養う。
◆概要	老年期特有の発達課題、今日的課題、身体的な変化と生活への影響について学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	老年期の定義	
2	老化とは	
3	老年期の発達課題①	
4	老年期の発達課題②	
5	老年期の発達課題③	
6	老年期の発達課題④	
7	老年期をめぐる今日的課題①	
8	老年期をめぐる今日的課題②	
9	老年期をめぐる今日的課題③	
10	老化にともなう身体的な変化と生活への影響①	老化に伴うこころとからだの変化と生活
11	老化にともなう身体的な変化と生活への影響②	
12	老化にともなう身体的な変化と生活への影響③	
13	老化にともなう身体的な変化と生活への影響④	
14	補足	
15	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

発達と老化の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての福祉現場での経験を活かし、老年期における発達について学びを深める科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	発達と老化の理解Ⅲ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	老化にともない、人は心理的、社会的にどのような変化をしていくのかが理解できる。後半では、具体的な疾患や症状に触れ、正しい知識を身につけることができる。
◆概要	老年期の心理的・社会的変化について学ぶ。また、高齢者の疾患の特徴について学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	老化にともなう心理的な変化と生活への影響①	老化に伴うこころとからだの変化と生活
2	老化にともなう心理的な変化と生活への影響②	
3	老化にともなう心理的な変化と生活への影響③	
4	老化にともなう心理的な変化と生活への影響④	
5	老化にともなう社会的な変化と生活への影響①	
6	老化にともなう社会的な変化と生活への影響②	
7	老化にともなう社会的な変化と生活への影響③	
8	老化にともなう社会的な変化と生活への影響④	
9	健康長寿に向けての健康①	
10	健康長寿に向けての健康②	
11	高齢者の症状・疾患の特徴①	老化に伴うこころとからだの変化と生活
12	高齢者の症状・疾患の特徴②	
13	高齢者の症状・疾患の特徴③	
14	高齢者の症状・疾患の特徴④	
15	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

発達と老化の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての実務経験をとおして培った能力・技術を生かし高齢期の発達における知識を習得できるよう学習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児　　（実務経験あり）		
科目名	発達と老化の理解Ⅳ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	高齢者に多い疾患や症状について理解するとともに、実際の生活において留意すべきことが理解できる。
◆概要	高齢者に多い疾患・症状について学び、生活上の留意点について具体的な事例をもとに留意点を考える。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①	老化に伴うこころとからだの変化と生活
2	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②	
3	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③	
4	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④	
5	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤	
6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥	
7	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦	
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑧	
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑨	
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑩	
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑪	
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑫	
13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑬	
14	保健医療職との連携	
15	試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

発達と老化の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての実務経験をとおして培った能力・技術を生かし高齢期の発達における知識を習得できるよう学習する科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大澤　志緒梨　　（実務経験あり）		
科目名	認知症の理解Ⅰ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	認知症の中核症状、周辺症状の知識を基礎のベースとし、認知症を持つ人、家族、または携わっている人たちの支援ができる。
◆概要	認知症とは何かから始まり、具体的な症状等を事例を通じて理解していく。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	認知症を取り巻く状況	認知症を取り巻く状況
2	認知症とは何か（生活障害を考える）	
3～5	認知症ケアの歴史	
6	問題行動から行動、心理症状への変かん	
7	認知症ケアの理念と視点	
8	認知症ケアの理念と視点（パーソン・センタード・ケア）	
9	オールドカルチャー・ニューカルチャー（パーソン・センタード・ケアから）	
10	認知症をもつ人の心理的ニーズ	
11	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
12	認知症と生理的健忘の違い	
13～14	中核症状の理解	
15	中核症状の理解（介護拒否を考える）	
16～20	ＢＰＳＤの理解（行動症状）	
21	中核症状と周辺症状の整理、観察のポイント	
22	老化のしくみ	
23	脳の構造	
24	認知症と類似した高次機能障害	
25	軽度認知障害について	
26	せん妄、うつ病について	
27	認知症と類似症状の違い	
28～29	認知症の原因疾患（アルツハイマー型認知症について）	
30	前期期末テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

認知症の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　出席状況25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての知識と経験を活かし、認知症について理解を深める科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大澤　志緒梨　　（実務経験あり）		
科目名	認知症の理解Ⅱ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	認知症をもつ人の代弁者として気持ちの理解をし、関係機関に繋ぐことや本人主体の視線で考えられることを目指す。
◆概要	認知症の診断について、治療、予防について理解を深めていく。また、環境による影響についても触れていく。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	認知症の原因疾患（血管性、レビー小体）	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
2	認知症の原因疾患（前頭側頭型、その他の原因疾患）	
3	認知症の診断	
4	認知症の診断、治療	
5	認知症の治療、非薬物療法	
6	認知症の予防	
7	認知症の予防	
8	認知症の人の心理を理解する	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア
9	認知症の人の介護をしていくために（地域における取り組み）	
10	認知症の人の体験	
11	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	
12	認知症の人の行動と環境との関係を理解する	
13	認知症の人をめぐる3つの要素、環境による働きかけ	
14	認知症になっても、これまでの生活を続けるために必要な事柄を学ぶ	
15	後期試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

認知症の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　出席状況25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての知識と経験を活かし、認知症について理解を深める科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大澤　志緒梨　　（実務経験あり）		
科目名	認知症の理解Ⅲ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	ひもときシートの実践をし、内容を理解し活用できるようになる。認知症介護における家族支援の方法についても理解することができる。
◆概要	ひもときシートを活用し実践を通して学んでいく。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	若年性認知症の人の生活の理解と支援	
2	認知症の人へのかかわりの基本	
3	認知症の人の介護過程	
4	ひもときシートの理解	
5	ひもときシートの実践	
6	ひもときシートの実践	
7	ひもときシートの実践	
8	ひもときシートの実践	
9	多職種連携・協働による支援の基礎的な知識の理解	連携と協働
10	地域におけるサポート体制	
11	チームアプローチにおける介護職の役割を学ぶ	
12	認知症介護における家族支援の方法	家族への支援
13	家族への支援（家族と介護職の協働）	
14	認知症に関する制度や施策について	
15	評価テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

認知症の理解（中央法規）

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　出席状況25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

介護福祉士としての知識と経験を活かし、認知症について理解を深める科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪　広美　　紅林　奈美夫（実務経験あり）		
科目名	障害の理解Ⅰ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	45時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護実践の根拠となる、疾患や障害の理解とそれらに伴う心身機能を理解し、本人や家族の支援に活かすことができる。また、多職種との連携の実際を学び実践における知識の習得を目指す。
◆概要	・疾患や障害に対する基礎的知識を学ぶ。 ・疾患や障害に伴う心身機能を理解する。 ・疾患や障害に対する多職種連携を学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	障害の基礎的理解（障害とは何か）小山内美智子氏の本から	障害の基礎的理解
2～3	日本における障害福祉の歴史	
4	ICIDHとICFの変遷と考え方	
5	障害者の定義	
6	障害者総合支援法による各障害の定義	
7	障害者福祉の基本理念	
8	障害と障害受容の過程	
9	視覚障害の原因と特性	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
10	視覚障害の医学的側面の基礎的理解	
11	視覚障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解（見えない世界を体験する）	
12	視覚障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
13	聴覚・言語障害の原因と特性	
14	聴覚障害の医学的側面の基礎的理解	
15	言語障害の医学的側面の基礎的理解	
16	聴覚障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
17	言語障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
18	聴覚障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
19	言語障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
20	脳血管障害の医学的側面の基礎的理解	
21	脳血管障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
22	脳血管障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
23～24	心臓機能障害の医学的側面の基礎的理解	
25	心臓機能障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
26	心臓機能障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
27～28	腎臓機能障害の医学的側面の基礎的理解	
29	腎臓機能障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
30	腎臓機能障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
31	膀胱・直腸機能障害の医学的側面の基礎的理解	
32	膀胱・直腸機能障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
33	膀胱・直腸機能障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
34	免疫機能障害の医学的側面の基礎的理解	
35	免疫機能障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
36	免疫機能障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
37	難病の医学的側面の基礎的理解	
38	難病がある人の心理的・社会的側面の基礎的理解	
39	難病がある人の生活と障害の特性に応じた支援	
40	知的障害の医学的側面の基礎的理解	
41	知的障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
42	知的障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
43	家族への支援のあり方と介護力を踏まえた介護負担の軽減	家族への支援
44	地域のサポート体制（事例を使い考える）	
45	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・障害の理解（中央法規）　・あなたは私の手になれますか（中央法規）　・障害者福祉論（学文社）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%⊡授業態度25%⊡試験60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

看護師、社会福祉士、精神保健福祉士の実務経験を活かし、障害を理解とその支援のあり方について学びを深める科目であ

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	紅林　奈美夫　　（実務経験あり）		
科目名	障害の理解Ⅱ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護実践の根拠となる、疾患や障害の理解とそれらに伴う心身機能を理解し、本人や家族の支援に活かすことができる。また、多職種との連携の実際を学び実践における知識の習得を目指す。
◆概要	・疾患や障害に対する基礎的知識を学ぶ。 ・疾患や障害に伴う心身機能を理解する。 ・疾患や障害に対する多職種連携を学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	知的障害の医学的側面の基礎的理解	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
2	知的障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
3～4	知的障害がある当事者の話から知的障害者の理解をする	
5	知的障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
6	発達障害の医学的側面の基礎的理解	
7～8	発達障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
9	発達障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
10	精神障害の医学的側面の基礎的理解	
11	精神障害者の心理的・社会的側面の基礎的理解	
12	精神障害者の生活と障害の特性に応じた支援	
13	多職種連携・協働による支援の基礎的な知識の理解	連携と協働
14	あらためて障害とはなにかを理解する	
15	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・障害の理解（中央法規）　　・障害者福祉論（学文社）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%　・授業態度25%　・試験60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

看護師、社会福祉士、精神保健福祉士の実務経験を活かし、障害を理解とその支援のあり方について学びを深める科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	花野　希久美　　（実務経験あり）		
科目名	こころとからだのしくみⅠ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護で関わる対象者に対し根拠ある介護実践ができるように、人体構造やその機能、人間の心理また、それらが対象者にどのように影響するのかを学び、介護実践に向けて情報収集やアセスメントの力がつくことを目指す。
◆概要	・こころのしくみを学ぶ ・人体のしくみを学ぶ（脳・神経系、　骨格系、筋系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、生殖器系、免疫系）

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	こころとからだのしくみを学ぶ意義	
2	健康とはなにか又健康を阻害する要因	
3	人間の基本的欲求（自己実現も含む）7	こころのしくみの理解
4	こころのしくみの基礎（脳とこころのしくみ）	
5	人格と適応	
6	人格と適応	
7～8	からだのしくみを理解する（脳・神経系）	からだのしくみの理解
9～10	からだのしくみを理解する（骨格系）	
11～12	からだのしくみを理解する（筋系）	
13～14	からだのしくみを理解する（感覚器系）	
15～16	からだのしくみを理解する（循環器系）	
17～18	からだのしくみを理解する（呼吸器系）	
19～20	からだのしくみを理解する（消化器系）	
21～22	からだのしくみを理解する（泌尿器系）	
23～24	からだのしくみを理解する（内分泌器系）	
25～26	からだのしくみを理解する（生殖器系）	
27～28	からだのしくみを理解する（免疫系）	
29	前期のまとめ	
30	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・こころとからだのしくみ（中央法規）　・人体の構造と機能　解剖生理学（メディカ出版）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%⊡授業態度25%⊡試験60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

看護師の専門的知識と経験を活かし、人間のからだのしくみについて理解を深める科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	花野　希久美　　（実務経験あり）		
科目名	こころとからだのしくみⅡ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	45時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1. 授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護で関わる対象者に対し根拠ある介護実践ができるように、人体構造やその機能、人間の心理また、それらが対象者にどのように影響するのかを学び、介護実践に向けて情報収集やアセスメントの力がつくことを目指す。
◆概要	・移動に関連したこころとからだのしくみ ・みだしなみに関連したこころとからだのしくみ ・食事に関連したこころとからだのしくみ ・入浴や清潔に関連したこころとからだのしくみ

2. 授業内容		教育に含むべき事項
1	移動に関連したこころとからだのしくみ（移動とは何か）	移動に関連したこころとからだのしくみ
2	基本的な姿勢と種類	
3	座位から立位保持のしくみ	
4	歩行のしくみ	
5～6	高齢者の転倒とその対策	
7～8	機能低下や障害が移動に及ぼす影響	
9～10	移動に関する観察ポイントと多職種連携	
11～12	みじたくに関連したこころとからだのしくみ（みじたくの意義）	身じたくに関連したこころとからだのしくみ
13～14	機能の低下や障害がみだしなみに及ぼす影響	
15～16	寝床内気候や被服内気候	
17～18	みじたくに関する観察ポイントと多職種連携	
19	食事に関連したこころとからだのしくみ（食事の意義）	食事に関連したこころとからだのしくみ
20	からだを構成する栄養素と１日に必要な栄養量・水分出納	
21～22	消化吸収のしくみ	
23～25	食事バランスガイドで自分の食事を評価する	
26～27	おいしく食べるための条件と工夫	
28～29	機能の低下や障害が食事に及ぼす影響	
30～31	食事に関する観察ポイントと多職種連携	
32～33	入浴に関連したこころとからだのしくみ（入浴意義）	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ
34～35	機能の低下や障害が入浴に及ぼす影響	
36～38	足浴の効果と効果を得るための条件（実験を通して学ぶ）	
39～41	ドライスキンケアのエビデンス	
42～43	入浴や清潔に関する観察ポイントと多職種連携	
44	後期の振り返り	
45	期末試験	

3. 履修上の注意

4. 使用教材（テキスト　等）

・こころとからだのしくみ（中央法規）　・ケア技術のエビデンス（へるす出版）

5. 単位認定評価方法

・出席状況15%⊡授業態度25%⊡試験60%

6. 成績評価の基準

5. による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

看護師の医学的知識と経験を活かし生活動作に関連したこころとからだのしくみについて理解を深める科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪　広美　　（実務経験あり）		
科目名	こころとからだのしくみⅢ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護で関わる対象者に対し根拠ある介護実践ができるように、人体構造やその機能、人間の心理また、それらが対象者にどのように影響するのかを学び、介護実践に向けて情報収集やアセスメントの力がつくことを目指す。
◆概要	・排泄に関連したこころとからだのしくみ ・排泄に関わる急変時の対応と多職種連携 ・睡眠に関連したこころとからだのしくみ ・睡眠支援における多職種連携

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～2	排泄の意義	排泄に関連したこころとからだのしくみ
3	排泄に関連するからだのしくみ（男女の泌尿器系の構造を学ぶ）	
4	排泄に関連するからだのしくみ（消化器系の構造を学ぶ）	
5	排泄に関連したこころのしくみ・尿と便の正常	
6	病気や老化が排泄に及ぼす影響（精神等）	
7	病気や老化が排泄に及ぼす影響（認知症等）	
8	病気や老化が排泄に及ぼす影響（ストレス）	
9	排泄時の急変とからだのしくみ（いきみと血圧・脳圧）	
10～11	排泄時の急変の対応と予防	
12～13	便秘の原因と予防	
14	排泄に関わる多職種連携	
15	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ
16	睡眠のしくみ	
17	睡眠のしくみ（サーカディアンリズム）	
18～19	睡眠のしくみ（照明等の環境に視点から考える）	
20～22	日本における睡眠が及ぼす影響と質の高い睡眠（睡眠指針をつかって）	
23～24	睡眠と寝具内環境（エアマットの活用）	
25～27	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響	
28	変化に気づくためのポイント	
29	前期のまとめ	
30	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・こころとからだのしくみ（中央法規）　・ケア技術のエビデンス（へるす出版）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%⊡授業態度25%⊡試験60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

看護師の医学的知識と経験を活かし生活動作に関連したこころとからだのしくみについて理解を深める科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪　広美　　（実務経験あり）		
科目名	こころとからだのしくみⅣ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護で関わる対象者に対し根拠ある介護実践ができるように、人体構造やその機能、人間の心理また、それらが対象者にどのように影響するのかを学び、介護実践に向けて情報収集やアセスメントの力がつくことを目指す。
◆概要	・人間の死に対するこころとからだのしくみを学ぶ。 ・終末期のおける家族を含めた支援方法について学ぶ。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ
2	在宅死から病院死に至った経緯と背景	
3	在宅死から病院死に至った経緯と背景	
4	死のとらえ方（グループワーク）	
5	死のとらえ方（グループワーク）	
6	死に対する個々の価値観や考え方を学ぶ（事例を使い考える）	
7	死に対する個々の価値観や考え方を学ぶ（事例を使い考える）	
8	死に対する考え方の価値観や考え方のまとめ（ICFの個人因子の重要性を学ぶ）	
9	終末期における身体の変化	
10	終末期ケアのあり方（グリーフケア）	
11	多職種連携と介護福祉士の役割	
12	死後のからだの変化	
13	死後のからだの変化	
14	死後のケア	
15	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・こころとからだのしくみ（中央法規）　・ケア技術のエビデンス（へるす出版）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%⊡授業態度25%⊡試験60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

看護師の医学的知識と経験を活かし終末期におけるこころとからだのしくみについて理解を深める科目である。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪　広美　　（実務経験あり）		
科目名	医療的ケアⅠ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	30時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	医療的ケアに関わる制度を理解し、介護福祉士として安全に配慮した医療的ケアを学ぶ。また、喀痰吸引に関わる知識を学ぶ。
◆概要	・医療的ケアの実施の関連した制度の概要と医療倫理・感染症等の基礎的知識。 ・喀痰吸引の基礎的知識及び安全に実施するための基礎的知識。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～2	医療的ケア導入の経緯と制度の概要	医療的ケア実施の基礎
3～4	尊厳と自立の復習と医療倫理およびインフォームドコンセントの理解する。	
5～7	介護保険法、障害者総合支援法、医療保険制度の概要を理解する。また、医療に関連する制度を理解し、医行為の法の理解する。	
8	正しい手の洗い方と手袋のつけ方（実践してみる）	
9	リスクマネジメント	
10	終末期ケアのあり方（グリーフケア）	
11～12	消毒と滅菌の違いが理解できる。排泄物等の処理方法を理解する。	
13～14	健康状態について理解し、バイタルサイン等の観察項目を理解する。	
15～16	バイタルサインの観察ができる。また、急変時の観察とその対応を理解する。 ※バイタルサインは生活支援技術、こころとからだのしくみで学び急変時変化を主として学ぶ。	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）
17	呼吸のはたらきを理解する。	
18～19	観察項目を理解しいつもと違う呼吸状態を理解する。	
20～21	人工呼吸器のしくみと生活支援の留意点について理解する。	
22	子どもの吸引に関する留意点について理解する。	
23～24	吸引を受ける利用者やその家族の負担を理解し、インフォームドコンセントを理解する。	
25～26	呼吸器系の感染予防について理解する。（廃液の処理方法の実践）	
27～29	喀痰吸引で使う器具や器材のしくみや清潔保持について理解する。吸引の技術と手技について理解する。報告や記録の実際を理解する。実際に物品に触れ手順を理解する。	
30	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・医療的ケア（中央法規）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%⊡授業態度25%⊡試験60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

看護師として病院、高齢者施設で勤務した能力・技術を生かした授業で、喀痰吸引、経管栄養の実施が評価科目に対し実践できるよう演習する。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	奥原　ます子　　（実務経験あり）		
科目名	医療的ケアⅡ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護福祉士として安全に配慮した経管栄養の実践方法を学ぶ。また、根拠を理解し実践できるよう経管栄養に関わる知識を学ぶ。
◆概要	経管栄養に関わる知識を学び、苦痛なく安全に経管栄養実施の知識を習得する。

2.　授業内容		教育に含むべき事項
1	消化器系のはたらきを理解する。	経管栄養（基礎的知識・実施手順）
2～3	消化吸収過程を理解するよくある消化器の症状について理解する。	
4	経管栄養が必要な状態を理解する。経管栄養のしくみと種類を理解する。	
5～6	栄養摂取と水分摂取の必要性を理解する。経管栄養で注入する内容を理解する。	
7～8	経管栄養の実施上の留意点を理解する。	
9	子どもの経管栄養の実際に関する留意点を理解する。	
10～11	経管栄養を行っている利用者の消化器感染の可能性を示す状態を理解する。経管栄養実施中の感染予防を理解する。口腔ケアの必要性を理解する。（イルリガードル等物品の消毒の実践）	
12	経管栄養をうける利用者の負担やその家族の負担を理解する。利用者およびその家族の対応を理解する。経管栄養の実施に関するインフォームドコンセントの方法を理解する。	
13	緊急を要する状況を理解し、急変の対応方法を理解する。医療職員との連携を理解する。	
14	緊急時、急変時の医療職員への報告・連携・記録の必要性とその方法を理解する。手順を理解する。	
15	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・医療的ケア（中央法規）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%　・授業態度25%　・試験60%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

看護師として病院、高齢者施設で勤務した能力・技術を生かした授業で、喀痰吸引、経管栄養の実施が評価科目に対し実践できるよう知識を学ぶ教科。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	大輪　広美　　奥原　ます子　　荻村　京子 （実務経験あり）		
科目名	医療的ケアⅢ	授業形態	演習	学年	2
総授業数	45時間	授業場所	基礎介護実習室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	喀痰吸引3項目、経管栄養2項目の実施の根拠を理解し手順を習得する。 救急蘇生及び応急手当の知識と実践を修得する 医療的ケアの基本研修を修了する。
◆概要	・喀痰吸引の3項目と経管栄養2項目の手順とその根拠を学ぶ。 ・喀痰吸引の3項目と経管栄養2項目を習得する。 ・救急救命士による救急蘇生と応急手当の知識と実践を学ぶ。 ・喀痰吸引3項目、経管栄養2項目、基本研修履修に必要な評価を行う。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～3	口腔内の喀痰吸引を実施する	演習
4～6	鼻腔内の喀痰吸引を実施する	
7～9	気管カニューレ内の喀痰吸引を実施する	
10～12	経鼻経管栄養を実施する	
13～15	胃ろうから栄養剤を注入する	
16～23	松本市広域消防局で実施されている上級救命講習の内容・方法に従って行う。（座学及び演習）・応急手当の基礎的知識を学ぶ。・救命処置の手順と根拠について学ぶ。・救命処置ができる。・乳幼児の救命処置ができる。・傷病者の応急手当を学ぶ。	
24～25	評価表を用いて学生同士で喀痰吸引の評価を行う	演習
26～27	評価表を用いて学生同士で経管栄養の評価を行う	
28～30	試験　口腔内の喀痰吸引	
31～33	試験　鼻腔内の喀痰吸引	
34～36	試験　気管カニューレ内の喀痰吸引	
37～39	試験　経鼻経管栄養	
40～42	試験　胃ろうからの経管栄養	
43～45	期末試験	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

・医療的ケア（中央法規）　・長野県介護福祉士養成施設連絡会作成DVD
・長野県介護職員喀痰吸引等実施要綱（評価表）　・応急手当講習テキスト（東京法令出版）

5.単位認定評価方法

・出席状況15%　・授業態度25%　・試験60%（筆記30%実技30%）

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

看護師として病院、高齢者施設で勤務した能力・技術を生かした授業で、喀痰吸引、経管栄養の実施が評価科目に対し実践できるよう演習する。

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児		
科目名	国家試験対策Ⅰ	授業形態	演習	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	国家試験の概要が理解できる。国家試験に向けての心構えができる。
◆概要	国家試験の基本的な内容についての説明を行う。また、国家試験の勉強方法についても具体的に示す。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～2	国家試験の概要説明	
3	国家試験の勉強方法について	
4～9	模擬試験	
10～11	模擬試験問題の解説	
12～13	模擬試験問題の復習	
14	小テストに向けた学習	
15	小テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

国試ナビ（中央法規）

5.単位認定評価方法

小テスト50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	深澤　栄美子		
科目名	国家試験対策Ⅱ－1	授業形態	演習	学年	2
総授業数	37時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護福祉士国家試験に合格する。
◆概要	介護福祉士国家試験合格へ向け、一問一答を行いながら各教科の重要ポイントを押さえ試験の概要を掴む。わからないことを自ら調べる力を身に付け、養成課程全ての教科の基本的な学習を振り返る。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	人間の尊厳と自立　（人間理解・人権と尊厳）	
2～3	人間関係とコミュニケーション（コミュニケーションの基礎）	
4～7	社会の理解　（社会保障の基本的な考え方、介護保険の背景や目的、介護サービスの利用）	
8～11	社会の理解　（障害者自立支援制度、個人の尊厳を守る制度、生活保護制度等、保険医療にかかわる施策）	
12～15	介護の基本（社会福祉士及び介護福祉士法、ＩＣＦ、ケアマネジメント、障がい福祉サービス、地域連携）	
16～19	介護の基本（介護職の倫理、介護における安全の確保）	
20～23	コミュニケーション技術（利用者、家族とのコミュニケーション、記録、報告、会議）	
24～26	生活支援技術（生活支援とは、福祉用具の活用、住環境の整備、身支度の介護、体位変換）	
27～29	生活支援技術（車いす・歩行の介助、食事の介助、入浴・清潔保持の介護、排泄、家事、睡眠の介護）	
30～31	介護過程（介護過程とチームアプローチ）	
32～33	発達と老化の理解（人間の成長と発達、老年期の発達と成熟、適応機制、高齢者の心の問題）	
34	認知症の理解（認知症ケアの理念、認知症の症状、認知症のある人の心理的理解、家族の支援）	
35	障害の理解（障害の基礎的理解、視覚障がい者の生活、肢体不自由、内部障害、精神障害、知的障害、高次脳機能障害、発達障害者、重症心身障害者の生活）	
36	こころとからだのしくみ（心のしくみ、身体のしくみ、身体の働き、身支度に関連したしくみ、移動、睡眠、食事入浴、排せつに関連したこころとからだのしくみ、死に関する理解とターミナルケア） 医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養の基礎知識、実施手順、緊急時の対応）	
37	テスト	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

介護福祉士国試ナビ2021（中央法規）

5.単位認定評価方法

授業態度20%　提出物10%　テスト60%　出席率10%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7．その他

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	百瀬　大輪　鈴木		
科目名	国家試験対策Ⅱ－2	授業形態	演習	学年	2
総授業数	113時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	着実に学力が身につき、その結果が模擬試験の結果に表れる。国家試験合格に向けての学力が身についている
◆概要	小テスト、模擬試験を数回行う。模擬試験は国家試験と同じ時間配分で行い、ペース配分を養う。面談を行い、現時点での状況を確認し今後の方針を考える。模擬試験を繰り返し、着実に学力を身につける。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1～6	模擬試験	
7～9	模擬試験解説＆復習	
10～12	小テストに向けての学習	
13	小テスト	
14	解説	
15～16	復習	
17～19	小テストに向けての学習	
20	小テスト	
21	解説	
22～23	復習	
24～29	模擬試験	
30～32	模擬試験解説＆復習	
33～44	面談	
45～112	模擬試験	
113	国家試験に向けての最終確認	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

国試ナビ2021（中央法規）　各種プリント

5.単位認定評価方法

試験50%　授業態度25%　提出物25%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。
追試験に合格しないもの又はレポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	深澤　栄美子		
科目名	HR・就職実務Ⅰ	授業形態	講義	学年	1
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期・後期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	介護福祉士を目指す仲間としてクラスメイトの理解を深め、学習しやすい環境を互いに作る事のできる時間とする。
◆概要	学校での過ごし方や実習へ向けた心構え等を伝えながら、学生個々の相談や意見を吸い上げ学習しやすい環境を整える。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	自己紹介	
2	学校の規則・書類の回収・学校生活の送り方	
3	学校の規則・書類の回収・学校生活の送り方	
4	学校内の掃除について	
5	担任との面談	
6	担任との面談	
7	実習前の学校での過ごし方・心がまえ	
8	実習前の学校での過ごし方・心がまえ	
9	実習前の学校での過ごし方・心がまえ	
10	実習へ向けた必要物品の確認	
11	実習着試着	
12	働くことの意味・健康管理について	
13	介護福祉士の働く現場について	
14	国家試験に向けた説明・準備	
15	就職に向けたアンケート記入	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

5.単位認定評価方法

授業態度50%　提出物40%　出席率10%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7. その他

学科 〈専攻〉	介護福祉学科	担当者	鈴木　健児		
科目名	HR・就職実務Ⅱ	授業形態	講義	学年	2
総授業数	15時間	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期

1.授業の到達目標と概要

◆到達目標	就職に向け基本的なビジネスマナーや書類作成、心構えが習得できる。
◆概要	基本的なビジネスマナーについて説明をした上で、実際に学校を就職先に見立て模擬就職試験を行う。その際、身だしなみ、あいさつ、面接における受け答えについて指導する。

2.授業内容		教育に含むべき事項
1	就職活動の概要	
2～3	身だしなみ、姿勢、あいさつ	
4	求人票の説明	
5～6	電話応対について	
7～9	履歴書の説明と作成練習	
10～12	面接練習	
13	応募書類について	
14～15	お礼状の書き方	

3.履修上の注意

4.使用教材（テキスト　等）

各種プリント

5.単位認定評価方法

授業態度80%　提出物20%

6.成績評価の基準

5.による判断を素点とし上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃを総合的に判断する。レポート内容の不十分なものについてはD評価とする。

7.その他